

Title	民間企業の研究開発動向(技術経営 (1))
Author(s)	小沼, 良直
Citation	年次学術大会講演要旨集, 21: 151-154
Issue Date	2006-10-21
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/6305
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○小沼良直（研究産業協会）

1. 概要

（社）研究産業協会では、民間企業の研究開発動向を調査する目的で、平成17年度に自主調査としてアンケート調査を実施した。本発表は、その概要を紹介するものである。

2. 調査実施方法

- ・調査対象：大手民間企業327社。（研究開発投資が30億円以上を抽出）
うち、102社が回答（回答率31.1%）

〔業種別回答企業数〕

電気機器	86	輸送用機器	33	化学	40	医薬品	23
機械	32	精密機器	10	その他製品	9	食料品	16
繊維製品	8	情報・通信	8	電気・ガス	10	パルプ・紙	3
石油・石炭製品	4	ゴム製品	5	ガラス・土石製品	9	鉄鋼	7
非鉄金属	7	金属製品	6	建設	8	陸運	3
合計							102

- ・調査時期：2006年1月6日（アンケート発送）～23日（アンケート締切）

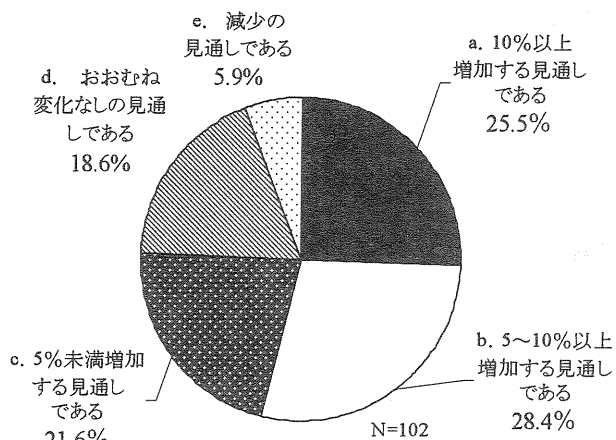
- ・調査項目：以下の内容に関する調査を実施した。

分 類	主 な 内 容
①研究開発環境について	・研究開発費や研究開発要員の増減 ・中長期的な研究開発と短期的な研究開発の比率 ・基礎研究、応用研究、開発の比率 ・人材育成にかかる費用、時間の増減
②国際競争力について	・国際競争における強みと弱み
③新技術の創造について	・アイデア創造における阻害要因 ・テーマ化、予算化における阻害要因 ・事業化における阻害要因 ・研究開発成果が事業化に結びつく確率
④自前主義とアウトソーシングについて	・コア技術の比重 ・アウトソーシングする理由と弊害 ・産学連携に対する見方
⑤研究開発人材について	・人材の確保（不足感） ・技術継承の問題 ・研究開発者能力の年齢限界 ・教育に対する見方

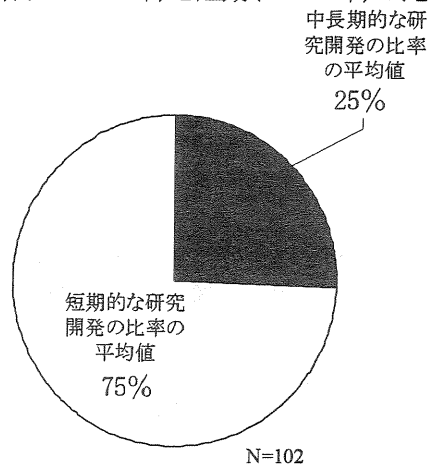
3. 調査結果の概要（一部のものを掲載）

（1）研究開発環境について

① 5年後の研究開発費の見通し

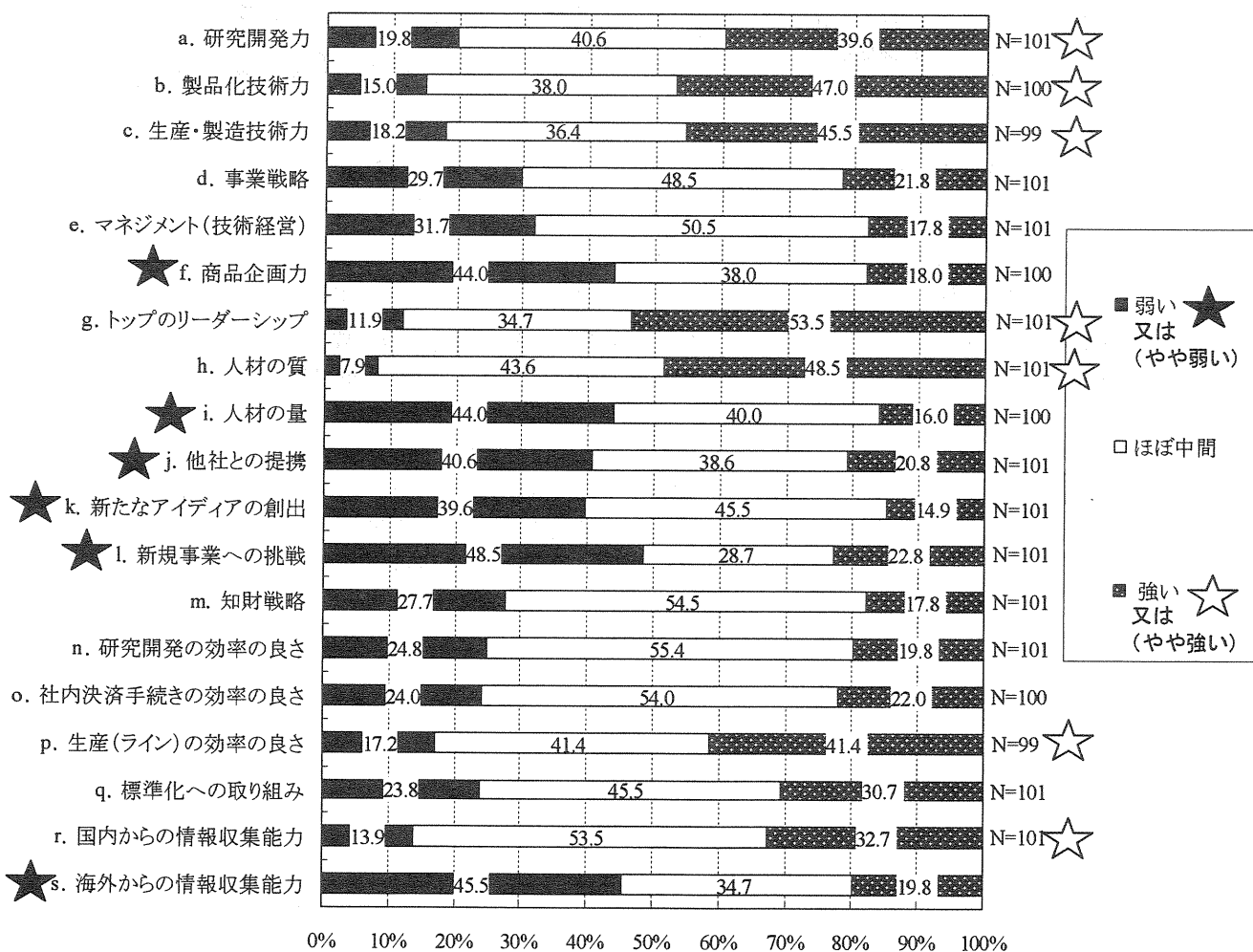


② 中長期（5～10年）と短期（1～4年）の比率



（2）国際競争力について

質問：国際競争力について、問a～sの当てはまる所（弱い・ほぼ中間・強い）に○を付けて下さい。
（国際競争をしていない会社でも、海外の同業他社と比べご回答下さい。）



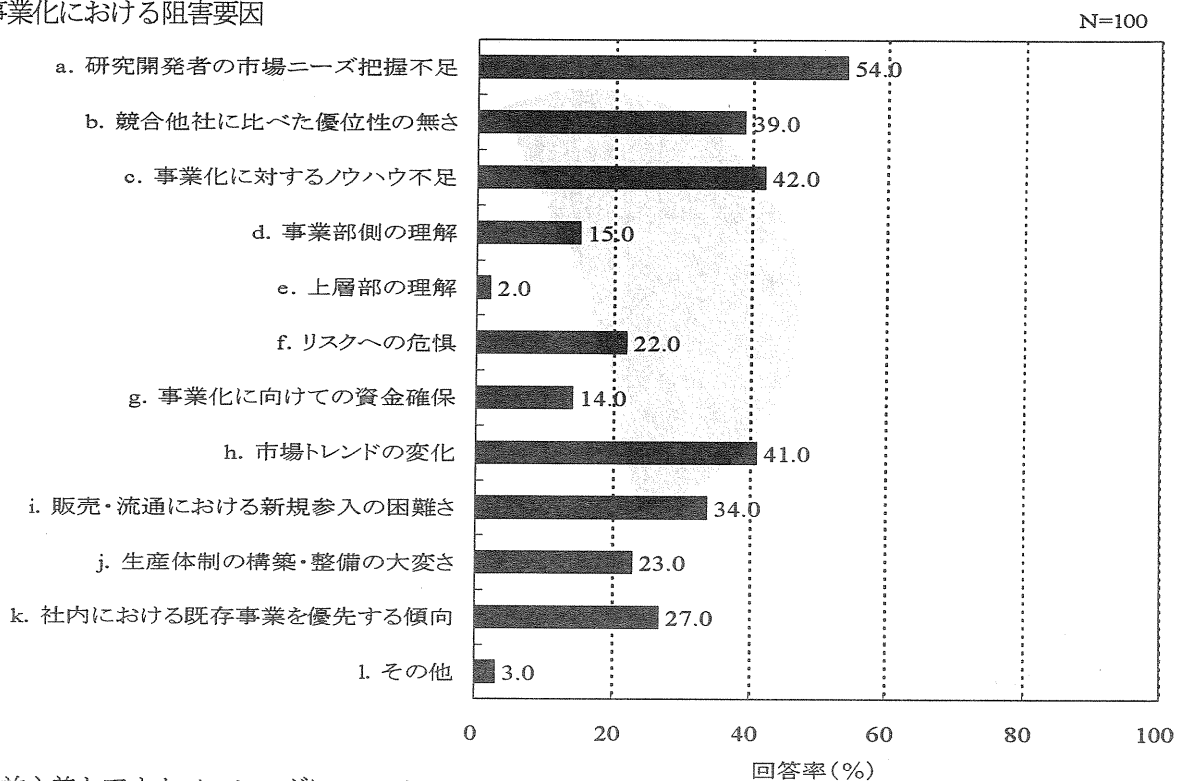
(3) 新技術の創造について

①研究開発成果が事業化に結びつく確率

質問：貴社において研究開発成果が事業化に結びつくのは、件数ベースで研究開発の何%程度ですか。

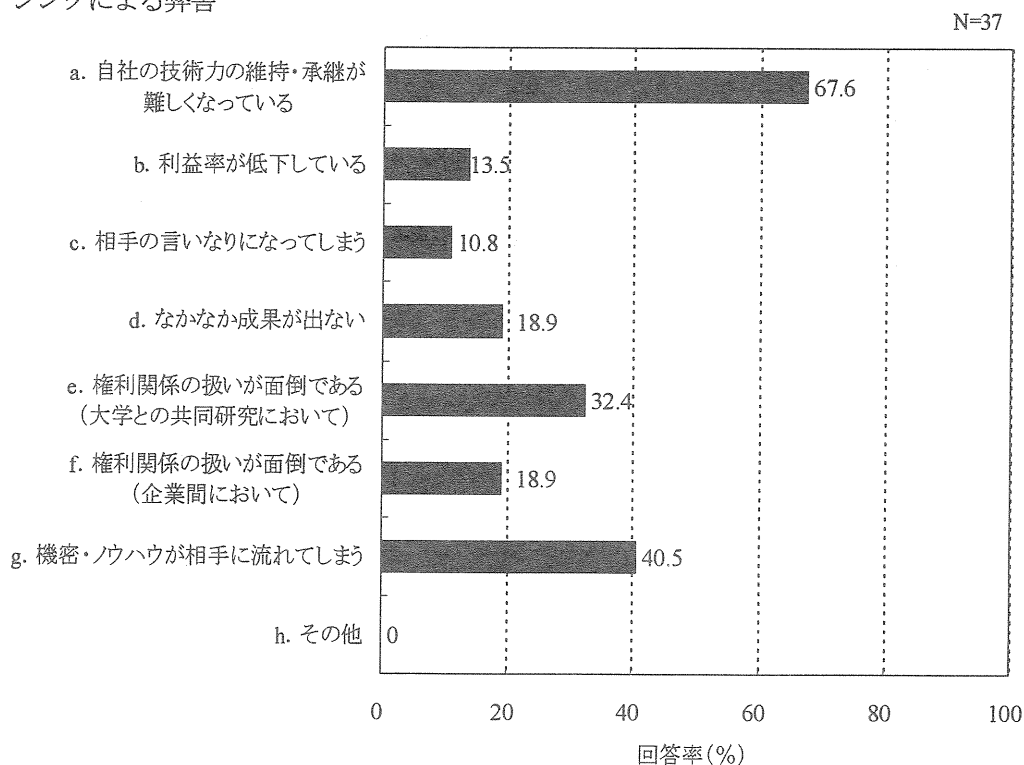
→回答：平均35.2%（85社回答）

②事業化における阻害要因



(4) 自前主義とアウトソーシングについて

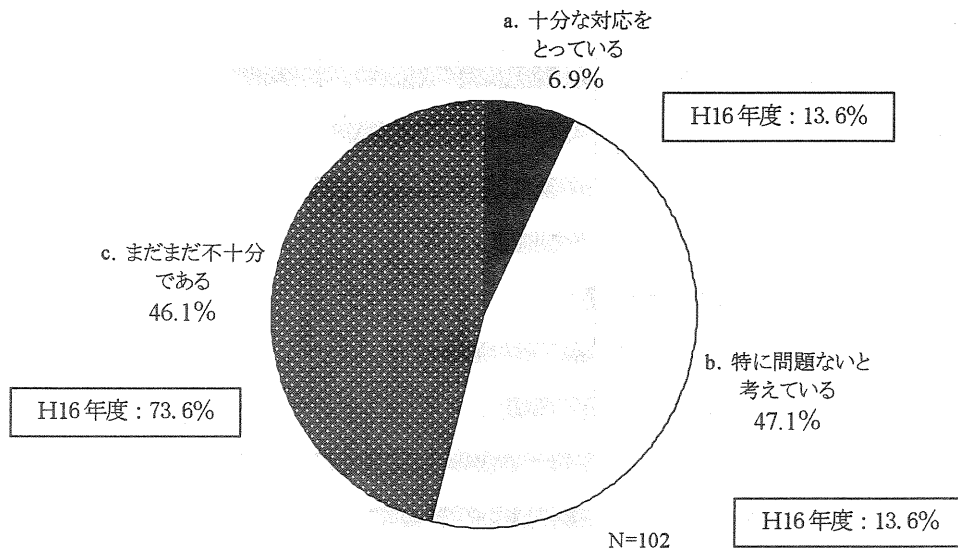
①アウトソーシングによる弊害



(5) 研究開発人材について

①技術継承の問題

質問：2007 年問題など、技術承継の問題が指摘されていますが、貴社においてはそれに対する対応は十分といえますか。



4. 調査結果のまとめ

(1) 研究開発環境について

- ・費用、要員共に増加傾向
- ・人材育成についても強化する方向

(2) 国際競争力について

- ・強い点：研究開発力、製品化技術力、生産・製造技術力、リーダーシップ、人材の質、生産ラインの効率
- ・弱い点：商品企画力、人材の量、新たなアイデアの創出、新規事業への挑戦、海外からの情報収集能力、他社との連携

(3) 新技術の創造について

- ・アイデアの創出は容易ではないが、1年前より向上。
- ・研究開発が事業化に結びつく確率の平均は35.2%
- ・阻害要因としては、「市場ニーズ把握」の問題が最も多い。

(4) 自前主義とアウトソーシングについて

- ・コア技術の重要性は向上。
- ・アウトソーシングは、産学連携も含めて増加傾向。
- ・アウトソーシングの弊害は、業種の差が大きい。
- ・産学連携の内容は、「企業ニーズ」が主体。
- ・産学連携の問題点としては、「知財」、「相手のスピード」、「相手の事業化に関する意識」が多い。
- ・国内大学と海外大学の比較においては、海外大学の方が評価が高い項目が多い。

(5) 研究開発人材について

- ・創造性、戦略立案、目利きなど人材の不足感がある。
- ・技術継承の問題は残っているが、1年前よりは改善傾向。
- ・研究開発者の能力限界に対する見方は様々。
- ・現状の教育については、懸念する見方が多い。